

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

高山社は美九里の誇り、藤岡市の誇りと語れる児童の育成を目指して
－他者との協同的な学習を取り入れた高山社学の実践を通して－

群馬県藤岡市立美九里西小学校

1 主題設定の理由

本校区は、群馬県南部の山間部に位置し、稲作に適さない地形である。そのため、農民が経済的に生活を安定させるために桑の栽培を行い、養蚕が普及した。地域には、養蚕農家も現存し、平成26年6月20日に養蚕の発展に大きく貢献したことが評価され、世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」の1つである高山社跡も有している。

平成25年度に、藤岡市教育委員会が、「藤岡市の伝統産業であった養蚕の歴史を児童生徒に伝承するとともに養蚕の発展に大きく寄与した高山社の歴史的価値について学び、郷土を誇りに思い、郷土を愛する児童を育成する。」ことをねらいとして、「高山社学」を提唱し、市内全小中学校がそれを推進している。本校では「高山社学」を3～6年生の総合的な学習の時間で系統的に学習しており、探究的な活動を通して地域の文化遺産である高山社の歴史的価値を理解させることをねらいとしている。また、これにより児童自らが高山社に歴史的価値を見出し、「高山社ってすごいんだぞ。」ということをも美九里の誇り、藤岡市の誇りとして、語れるような児童を育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究の内容

4年生では、主に①～④の活動内容を行う。

①課題設定

「高山社」を中心としたウェビングマップを行い、調べるべき課題を児童自ら気づくようにする。

②情報の収集

「高山社」「富岡製糸場」「高山長五郎」「カイコ」の4つの課題テーマに関して、それぞれグループを編成し、協働しながら調べ学習を行う。インターネットや本、パンフレットなどで調べる他、実際のもので出会うために養蚕体験を行ったり、他者と協働できるように、養蚕農家や高山社跡などに行き、専門的な知識を持つ人の話を聞くなどして、自分が調べている課題の追究する。

③整理・分析

調べたことをグループごとに用紙にまとめ、それらをクラスで発表し合って意見交流する。そこで出た意見を元に、さらに各グループで話し合い、必要な情報を調べたり整理したりする。

④まとめ・表現

友達と協働して、調べたことをまとめたものを模造紙に書く活動を行う。また、

それを他学年の児童や教員の前で発表する。その後、参観者との交流の中で出てきた改善点を各グループで修正し、それらを合わせて1つの劇を作り、学習発表会で家族や他学年に向けて発表を行う。

3 実践例

4年生では、主に①～⑥の活動を行った。

①ウェビングマップ作成

児童に美九里地区にある自慢できるものの中から世界に誇れるものを考えさせ、高山社を挙げさせた。その後、「高山社」を中心としたウェビングマップを行い、高山社とつながりがあるものとして「富岡製糸場」「高山長五郎」「カイコ」などの言葉を皆で協働しながら考え出させた。また、作成を通して自分が調べるべき課題を見出させることができた。

②各グループでの調べ学習

グループの中で調べることを話し合い、インターネットや本、パンフレットなどを使って、必要な情報を集めることができた。

③養蚕体験

4年生教室の前の廊下に、カイコの飼育スペースを設け、1、2学期とカイコを飼育してきた。1学期は5年生が育ててきたカイコが繭になり、羽化したカイコ蛾が産んだ卵から生まれた「けご」を引き継いで育てた。また、2学期は地域の養蚕農家の人からもらったカイコを、その方の指導を受けながら育てた。

児童は毎日友達と協働して写真を撮ったり、観察日記を書いたりして、カイコの成長を記録した。その他にも、餌やり、フンの掃除、ケバ取りなどを行い、養蚕の苦労について体験することができた。また、先人たちが気温や湿度に着目してカイコを飼育したことなどを本や資料を読んで学び、養蚕の工夫について学習したことを皆で共有し合いながら、実践に生かすことができた。

④養蚕農家・高山社跡の見学

養蚕農家では、家の外観や中の造りなどを観察し、課題解決のために必要な情報を集めることができた。また、養蚕農家の人に「カイコを育てていて苦労していることは何か？」など気になったことを質問し、回答を得ることができた。その後、帰る前に学校で飼育するための蚕を百匹程度譲ってもらった。

高山社跡では、カイコの飼育部屋や餌となる桑を貯蔵する場所など、カイコの育成に関係する施設を見学したり、高山社の歴史が分かる展示物を見たりしながら、課題解決のために必要な情報を集めることができた。また、案内係の人に「桑の葉はどこから調達していたのか？」など、調べても分からなかったことを質問し、回答を得ることができた。

⑤整理・分析

各グループで調べたことを用紙にまとめ、それをグループ内や他のグループに向けて発表し合い、その内容について皆で意見を出し合った。また、そこで出た意見を参考に、各グループで課題解決のためにさらに調べるべきことを考えたり、発表に必要な情報を整理したり、分析したりすることができた。

⑥まとめ・表現

整理・分析した情報を模造紙にかいたり写真を貼ったりし、それを来年度の引き継ぎも兼ねて3年生の児童や教員の前で発表した。

発表を行った後は、参観者と意見交流し、良かった点や改善点などを挙げてもらった。それらを参考にして自分たちの発表の課題点を見出し、それを修正することで、全校での学習発表会に臨んだ。具体的には、班ごとに学習発表会での劇の発表内容を考えたり、発表に必要な道具を作ったり、積極的に練習を行ったりした。本番では、一人一人がそれぞれの役に成り切って、堂々と発表した。

4 研究の成果と課題

児童は友達だけでなく、他学年の児童や教員、保護者、調べている課題に詳しい人など、多くの人たちと協働しながら課題を追究することができ、その結果、一人では気づけなかったこと、分からなかったことに触れることができた。

また、調べ学習を進める中で、田島弥平旧宅や荒船風穴など他の絹産業遺産群の存在にも気づき、それらと調べている課題とのつながりを詳しく調べることで、課題をより深く追究することができた。さらに、調べたことのまとめを模造紙に書いた時に「高山社がぼくたちの地域にあってとても誇りに思う。」や「調べたことを多くの人に伝えたい。」という記述があった。このことから、高山社を美九里の誇り、藤岡市の誇りとして、語れるような児童を育成できたと考えられる。

調べ学習を進める中で、郷土資料が児童にとって難しい内容であるため、情報収集に苦労していた。課題に対して専門的な知識を持つ人に、児童が分からないことを聞く機会を多く設けられるようにするなど、情報獲得の手段の提示が今後の課題である。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()